

中津みらい月間 まなびの里 まちごとキャンパス

福澤諭吉と Up Skilling

2025年11月 29日

静岡県立大学教授／理化学研究所AIPセンター客員研究員／エコノミクスデザイン社 シニアエコノミスト

上野 雄史



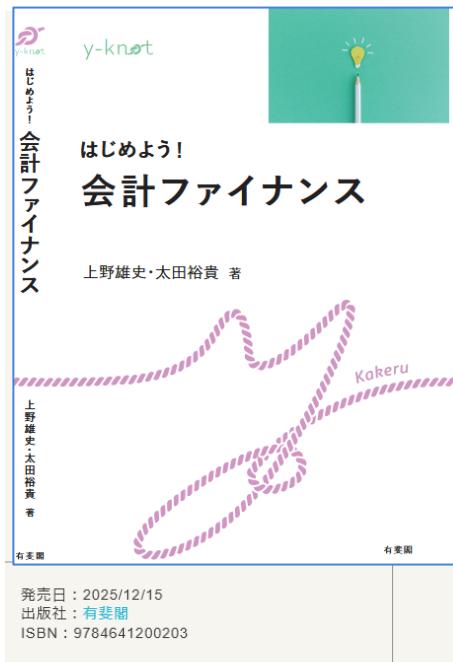
自己紹介 (うえの たけふみ)

静岡県立大学教授／理化学研究所AIPセンター客員研究員／エコノミクスデザイン社シニアエコノミスト

博士（商学、関西学院大学）

研究領域：財務会計・企業分析

最近では、サステナビリティ関連にも従事



今日はいくつかの本を読み解きながら、

- ・福沢諭吉の考え方が現代の教育にどう繋がっているのか？
- ・そもそも『「学ぶ」とは何なのか？』について、福沢諭吉の著書に基づいて考えていきたいと思います。
- ・まず「福沢諭吉」先生に関するあなたが持っているイメージを書き出してみましょう！



福沢諭吉はどんな人？？

- ・皆さんの意見は？？

いきなりですが
クイズです
(その 1)

福沢諭吉は実学志向の考え方であり、物理学、倫理学を学ぶことに対する否定的であった。
本当でしょうか？嘘でしょうか？

答え

- ・そんなことは言っていません。
- ・福沢諭吉は、J・S・ミル、H・スペンサー、H・バッклーらの社会思想、哲学者、歴史家たちの著書に大きな影響を受けていました。
- ・J.S.ミル (John Stuart Mill) : 功利主義 (最大多数の最大幸福) を説いた哲学者であり、経済学者ともいわれることも。『自由論』『代議制統治論』『功利主義』『婦人論』など。

「学問のすすめ」十五編

「今の人事において男子は外を務め婦人は内を治むるとてその関係ほとんど天然なるがごとくなれども、スチュアルト・ミルは『婦人論』を著わして、万古一定動かすべからざるのこの習慣を破らんことを試みたり。」

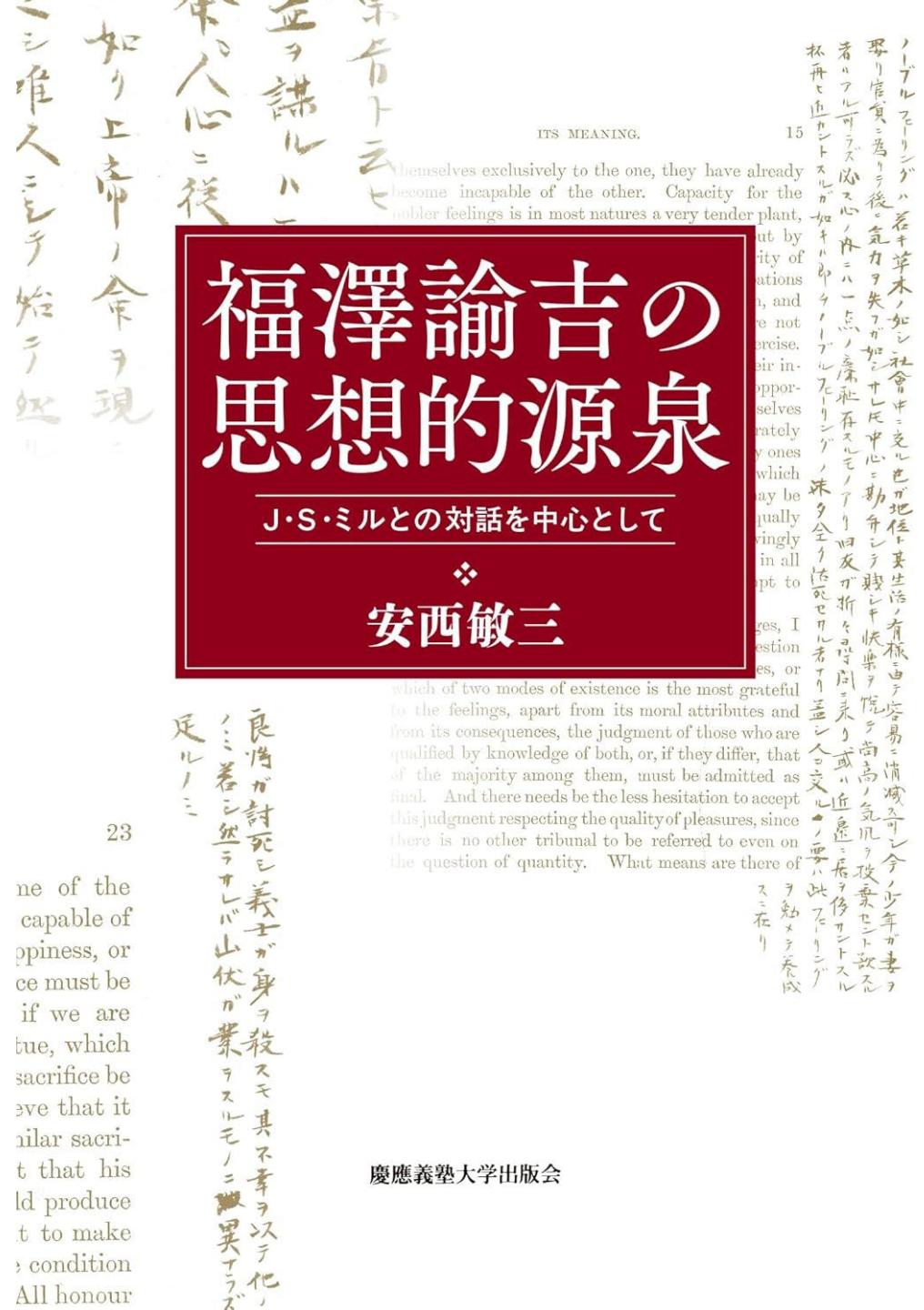
H・スペンサー (Herbert Spencer) : 哲学者・社会進化論者、『社会静学』『教育論』

H・バッカル (Henry Thomas Buckle) : 歴史学者、『イギリス文明史』

特にミルには注目

まえがき

- 一 はじめに
 - 二 実学（サイエンス）と技術（アート）
 - 三 功利論（ユーチリタリヤニズム）と正義
 - 四 自由（リベルチ）と独立（一）——「一身独立」
 - 五 自由（リベルチ）と独立（二）——「一国独立」
 - 六 おわりに——思想的位相



学問のすすめ（初編）、より

- ・されば今、かかる実なき学問はまず次にし、もっぱら勤むべきは人間普通日用に近き実学なり。たとえば、いろは四十七文字を習い、手紙の文言もんごん、帳合いの仕方、算盤そろばんの稽古、天秤てんびんの取扱い等を心得、なおまた進んで学ぶべき箇条ははなはだ多し。地理学とは日本国中はもちろん世界万国の風土ふうど道案内なり。究理学とは天地万物の性質を見て、その働きを知る学問なり。歴史とは年代記のくわしきものにて万国古今の有様を詮索する書物なり。経済学とは一身一家の世帯より天下の世帯を説きたるものなり。修身学とは身の行ないを修め、人に交わり、この世を渡るべき天然の道理を述べたるものなり。

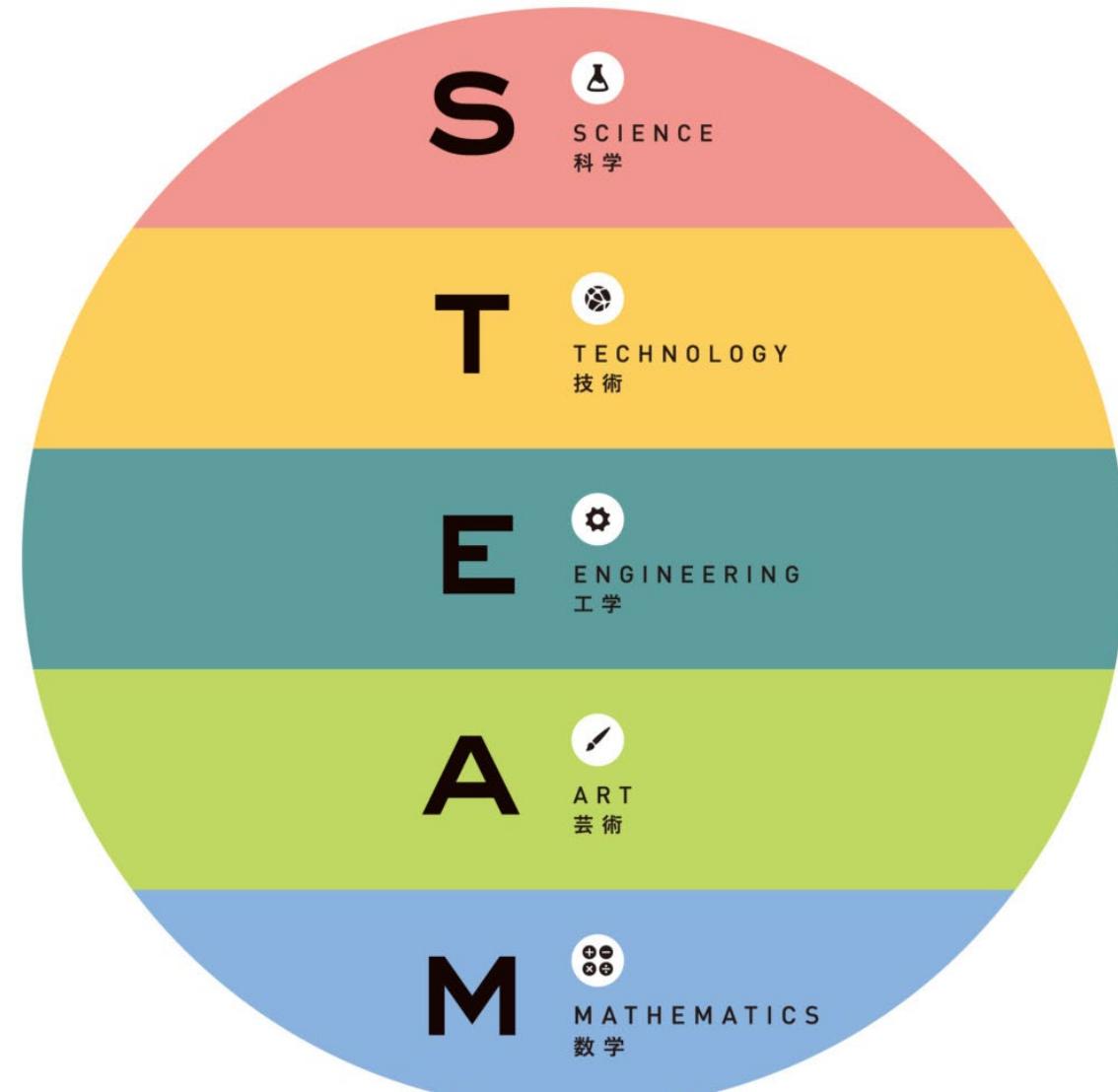
普通日用に近き実学

- いろは → リテラシー（国語力）
- 手紙の文言 → ビジネス文書作成
- 帳合い・算盤 → 会計・計算力
- 天秤の取扱い → 計量の能力

さらに進んで学ぶべき

- | | | |
|-----|---|--|
| 地理学 | → | 日本国中はもちろん世界万国の風土道案内なり |
| 究理学 | → | 天地万物の性質を見て、その働きを知る学問なり（物理学） |
| 歴史 | → | 歴史とは年代記のくわしきものにて万国古今の有様を詮索する書物なり |
| 経済学 | → | 一身一家の世帯より天下の世帯を説きたるものなり |
| 修身学 | → | 身の行ないを修め、人に交わり、この世を渡るべき天然の道理を述べたるものなり（倫理学） |

求められてい
ることは変わ
らない？
いわゆる、
STEAM教育



(出所) STEAM教育ってなに？ワクワクを軸にした次世代の“学び”を
<https://steam-japan.com/practice/891/>

学問のすすめ、より（第2編）

- 学問とは広き言葉にて、無形の学問もあり、有形の学問もあり。心学、神学、理学等は形なき学問なり。天文、地理、窮理、化学等は形ある学問なり。いずれにてもみな知識見聞けんもんの領分を広くして、物事の道理をわきまえ、人たる者の職分を知ることなり。知識見聞を開くためには、あるいは人の言を聞き、あるいはみずから工夫を運めぐらし、あるいは書物をも読まざるべからず。ゆえに学問には文字を知ること必要なれども、古来世の人の思うごとく、ただ文字を読むのみをもって学問とするは大なる心得違いなり。

無形の学問（精神的領域）

心学、神学、理学等は形なき学問なり。

心学・・・人の心（倫理・道徳）

神学・・・宗教的教理の理解

理学・・・抽象原理・観念の探究

有形の学問（実証的領域）

- 天文、地理、窮理、化学等は形ある学問なり。

天文	天体の観察
地理	地表・世界の構造
窮理（きゅうり）	物事の道理や法則を極め探究すること
化学	物質変化の原理

学ぶこととは？

人の言を聞き、あるいはみずから工夫を運めぐらし、あるいは書物をも読まざるべからず。

人の言を聞く	他者から学ぶ、教わる
工夫を運（めぐ）らす	学んだことを工夫し、思考を巡らす
書物をも読まざるべからず	書物を読む

他者から学ぶ（受動） 自ら考える（能動） 書物で知を広げる（蓄積）

学ぶこととは？

- 学問には文字を知ること必要なれども、古来世の人の思うごとく、ただ文字を読むのみをもって学問とするは大なる心得違いなり。文字は学問をするための道具にて、たとえば家を建つるに槌つち・鋸のこぎりの入用なるがごとし。

読み書きは学問の目的ではなく手段であり、読み書きができれば学問が出来るというわけではない。

福沢諭吉の実学感は？

- ・ 実学は、法律、経済学、農学、商学、医学、など。
- ・ 職業に直結する教育、『スキルを習得して、それを使う』、と一般的に捉えられています。

一方で、福沢諭吉は学問を人生・社会の中で使いこなすことが重要と説いています。

つまり、ビジネスのリテラシーを備えた上で

- ①物事の虚実を自分で判断できる能力（独立自尊の判断力）
- ②正しく振舞い責任を果たす（徳（倫理））
- ③社会の仕組みを理解し、自ら行動するための知識
- ④社会、政治・経済の現実に根差した思考

福沢諭吉の実学論は、単なる職業教育でない、

「生きた知としての学問」の重要性

クイズ (その2)

福澤諭吉は、親に対して子供を幼少の頃から積極的に学問を行うようになることが大切だと説いている（幼児教育のススメを説いてた）。

答え

- 違います。「まずは獸身を作つてから、それから人心を養うように」（福翁百話）と説き、教育の前に幼児はまず身体を作ることが重要だと説いています。
- 「幼少の頃から、なにか難しいことを教えて、子供の心を疲弊させるのをためらわない。五、六歳の子供に本を読ませ、ものごとの道理を教え、いろいろな器具なんかを与えて、数字を教え込み、幸いにして、うまく理解してくれたら、「頭のいい子だ」などと讃めそやす。それに加えて、ちょっと稽古を怠つたら叱ることさえあるから、子供心にも「人に褒められよう」としておのずと勉強を頑張るようになり、だんだんその習慣がきてくる。すると生理の原則は見逃してくれないので、だんだん身体が弱り始める。血色のいいふっくら丸々とした顔になるはずなのに、胃弱や頭痛などに苦しめられて、ちゃんと食べられない。」（福翁 百話「三十一話 身体の発育こそ大切なれ」

福翁自伝「第十一編 品行と家庭、そして老後」より

- ・子供の教育法については、私はもっぱら身体の方を大事にして、幼少の時から強いて読書などをさせない。
- ・それまではただ慣れ次第に慣れさせて、衣食にはよく気をつけてやり、まだ子どもながらも卑劣なことをしたりいやしい子どもながらも卑劣なことをしたりいやしい言葉をまねたりすればこれを咎めるだけのこと。そのほかは一切投げやりにしておくその有り様は、犬猫の子を育てるのと変わることはない。

褒めないことのススメ

- 世間の父母はどうするかと勉強勉強と言って、子供が静かに読書すればこれを褒める者が多いが、私方の子どもは読書勉強してほめられたことはないだけでなく、反対にこれを止めている。子供はすでに通り過ぎて今は幼少の孫の世話をしているが、やはり同様で、年齢不似合いに遠足したとか、柔術体操がうまくなったとかいえば、褒美を与えてほめてやるけれども、本を読むといってほめたことはない（「福翁自伝 第十一篇 品行と家庭、そして老後」）」。

叱らないことのススメ

- ・木登りをしたり、屋根を登ったりすることは大した問題にされなかつた。
- ・「木登りをしている幼稚舎の子どもたちを見つけた父は、「あわてるな、早く降りようとするとおっこちるから、ゆっくり降りなさい」といろいろ話かけて安心させ、心のゆとりをとりもどしたのち、ゆっくり降りてくるようにさせていたそうである。
- ・（「教育者としての父」『父・福沢諭吉』より）

クイズです (その3)

福沢諭吉は、人生や明確な目的意識をもって学問をすることが重要だと説いていた。

答え

- ・ そうとも言えません。
- ・ 「学問のすすめ」では、あくまでも自らの職分を知り、学ぶことの重要性を説いていますが、人生や将来の明確な目的意識を持つとは言っていません。強い言えば、学問を活用することの重要性は説いています。

学問のすすめ（第二編より）

- 「目の前に人を欺きて巧みに政府の法をのがれ、国法の何ものたるを知らず、己おのが職分の何ものたるを知らず、子をばよく生めどもその子を教うるの道を知らず、いわゆる恥も法も知らざる馬鹿者にて、その子孫繁盛すれば一国の益はなさずして、かえって害をなす者なきにあらず。かかる馬鹿者を取り扱うにはとても道理をもってすべからず、不本意ながら力をもっておどし、一時の大害をしずむるよりほかに方便あることなし」

国法を知らず・・・・・・・・・・・

社会のルールを理解しない

職分を知らず・・・・・・・・・

自分が果たすべき役割を理解しない

子を教える道を知らず・・・・・

次世代に伝えるべき知を欠く

恥も法も知らず・・・・・・・

倫理意識の欠如

福澤諭吉の人生 を辿ると・・



文久遣欧使節団の随員として
ヨーロッパを巡った際の写真
(当時、27歳)

- ・大阪へ、さらに江戸へと出たのは周囲の勧めや幕府の命によるものでしたが、福澤自身は医学よりも西洋の知識・語学に強い関心を抱くようになりました。
- ・その後、渡米、渡欧し、多くの書物や知識を吸収します。幕府の任務でありながら、常に自分自身の探究心を原動力として学び続けました。残された膨大なノート類からも、彼が主体的な学びを体現した人物であったことがわかります。

万延元年
(1860)

遣米使節（咸臨丸随行）

サンフランシスコ

文久2年 (1862)

文久遣欧使節団

主要歐州諸国

文久3年 (1863)

第二次渡欧（再度派遣）

再び歐州へ

(出所) 慶應義塾のWEBページ「『福澤諭吉の肖影に接して』～ロンドンで発見された鮮明な肖影写真から～」

学問のすすめ十五編 「事物を疑いて取捨を断すること」

- 「信の世界に偽詐ざさ多く、疑いの世界に真理多し。試みに見よ、世間の愚民、人の言を信じ、人の書を信じ、小説を信じ、風聞を信じ、神仏を信じ、ト筮ぼくぜいを信じ、父母の大病に按摩あんまの説を信じて草根木皮を用い、娘の縁談に家相見かそうみの指図を信じて良夫を失い、熱病に医師を招かずして念佛を申すは阿弥陀如来あみだによらいを信するがためなり。三七日の断食に落命するは不動明王ふどうみょうおうを信するがゆえなり。この人民の仲間に行なわるる真理の多寡を問わば、これに答えて多しと言うべからず。真理少なければ偽詐多からざるを得ず。けだしこの人民は事物を信ずといえども、その信は偽を信する者なり。ゆえにいわく、「信の世界に偽詐多し」と。」
- 「然りしこうして今この責せめに任ずる者は、他なし、ただ一種わが党の学者あるのみ。学者勉めざるべからず。けだしこれを思うはこれを学ぶに若しかず。幾多の書を読み、幾多の事物に接し、虚心平氣、活眼を開き、もって真実のあるところを求めなば、信疑たちまちところを異にして、昨日の所信は今日の疑団となり、今日の所疑は明日氷解することもあらん。学者勉めざるべからざるなり。」

批判的思考と主体的学びによって真理へ近づくことの重要性を説く。

福沢諭吉の教育論

- ・学びとは自ら考え、創意工夫し、書物を読み、それを実社会に活かしていくこと
- ・実学は幅広い学びによってもたらされる
- ・その学びをもとに、自ら主体的に判断し、行動する能力を育てていく
- ・褒められる、叱られる教育は主体性を損なう。
- ・幼少期は身体と心の基礎を育むことがまず大事
- ・主体的な学びが、個人、社会をより良いものにする（一身独立し一国独立す）